

東日本大震災に対する学会の対応について

東北・太平洋沖を震源とする国内観測史上最大の地震によって、太平洋沿岸域では津波による未曾有の被害が発生しています。また、原子力災害に関しては、一進一退の憂慮すべき状況が今なお続いています。

亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された会員ならびにご家族の方々に対し、哀心よりお見舞い申し上げます。また、救助・救援にあたられている関係各位に対し深甚なる敬意を表します。

日本デザイン学会においては、会員の安否確認を行っております。会員で被災された方がいらっしゃいましたら、本部事務局までお知らせください。

同時に、安全で安心できる生活や持続可能な社会の再構築に向け、救済や復旧・復興支援策、さらにはその先に控える振興策等々、学会として対応可能な課題に取り組んでいくことが希求されています。会員および関係者の皆様におかれましては、研究成果の還元や社会貢献をはじめとして、そのネットワークを最大限に活用した支援策実現に向けてご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本デザイン学会会長 青木弘行

平成22年度第5回理事会議事録

日時■平成22年11月13日(土曜日)

12:00～13:20

場所■筑波大学 大会会館・総合交流会館

出席者■蓮見, 五十嵐, 伊豆, 伊原, 清水,
黄, 小林, 佐々木(美), 佐藤, 杉下, 杉山,
須永, 寺内, 長谷, 野口, 古屋, 松岡,
山中, 國澤

委任状出席■青木(弘), 尾登, 青木(幹), 岡本,
河原林, 久保, 車, 黒川, 佐々木(尚),
永井, 梨原, 三橋, 宮崎, 村上, 森田,
山崎, 渡邊

名誉会員出席者■五十嵐(治), 加藤, 君島, 清水,
平, 望月

1. 副会長挨拶

青木会長が欠席のため、蓮見副会長より挨拶がなされた。

2. 名誉会員の紹介

五十嵐(治)名誉会員, 加藤名誉会員, 君島名誉会員, 清水名誉会員, 平名誉会員, 望月名誉会員よりご挨拶がなされた。

3. 平成22年度第4回理事会議事録の承認

(國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長より平成22年度第4回理事会の議事録が示され、承認がなされた。

【審議事項】

4. 平成23年度春季研究発表大会について

(佐藤大会副実行委員長)

佐藤大会副実行委員長より、6月24日～26日、千葉工業大学津田沼キャンパスにて開催予定である、平成23年度

春季研究発表大会について、テーマ案「コラボレーションによるデザイン」、実行委員会組織案、プログラム案、参加費案が示され、参加費、テーマについては再度検討することとした。

5. 文科省実践型人材育成事業への協力と受託について

(蓮見教育・資格委員長、國澤本部事務局長)
産業技術大学院大学が受託した文科省実践型人材育成事業の一部、プログラム開発(レベル3:新人～主任デザイナー向け)について学会に再委託したいとの申し出があり、審議の後、教育・資格委員会を窓口として、受託することとした。

6. 会員の移動について(國澤本部事務局長)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[入会:正会員11名(内外国人7名)], [退会:正会員3名(内外国人1名)]が承認された。

【報告事項】

7. 平成23年度春季研究発表大会

オーガナイズドセッションの提案

(清水理事、須永理事)

平成23年度春季研究発表大会オーガナイズドセッションの企画案として、清水理事から「デザインに於ける芸術性」、須永理事から「メタデザイン学への挑戦(仮)」、それぞれ資料に基づき説明がなされた。今後の選考については通常の手続きに従い進めていくこととした。

8. IASDR2013について(杉山担当理事、山中担当理事)

2013年日本で開催が予定されているIASDR2013について、開催場所を芝浦工業大学豊洲キャンパス、開催日程を9月上旬で、学術会議に申請する予定であるとの報告がなされた。

9. 作品集進捗状況について

(須永作品審査・作品集編集委員長)

須永作品審査・作品集編集委員長より、作品集の進捗状況について、第一次審査への応募56件、その内40件を第一次審査通過、第二次審査への応募38件(動画を含む作品13件)があり、現在審査中であるとの報告がなされた。

10. 第三支部活動報告(黄第三支部副支部長)

黄第三支部副支部長より、7月25日、Cafe Globeで開催されたデザインカフェ「脳をデザインする」について報告

がなされた。また平成23年3月20日、新潟工科大学で開催を予定している第三支部研究発表会について告知がなされた。

11. 第五支部活動報告(伊原第五支部副支部長)

伊原第五支部副支部長より、10月23日、崇城大学芸術学部で開催された第五支部研究発表大会(口頭発表32件、ポスター発表11件)について報告がなされた。

12. 環境部会編集集中の本の出版について(長谷理事)

長谷理事から、現在環境部会で編集集中である本の出版に関して、学会として出版する方法、可能性について問い合わせがあり、初めての取り組みであるため、他学会などを参考にしながら検討を進めることとした。

13. 会報の原稿の依頼について

(小林学会誌編集・出版委員長)

小林学会誌編集・出版委員長より、次号の会報ための原稿について依頼がなされた。

14. IASDR2011の協力依頼について(山中担当理事)

山中担当理事から、2011年デルフトで開催されるIASDR2011について、査読などの協力について要請がなされた。

記録:小野

平成22年度第6回理事会議事録

日時■平成22年12月18日(土曜日)

15:00～17:00

場所■東京藝術大学(上野)音楽学部

出席者■青木(弘)、蓮見、尾登、五十嵐、伊豆、岡本、河原林、久保、黄、佐々木(尚)、杉下、杉山、梨原、野口、古屋、松岡、三橋、山中、禹、國澤、小野

委任状出席■青木(幹)、伊原、清水、車、黒川、小林、佐々木(美)、佐藤、寺内、永井、長谷、宮崎、森田、山崎

欠席者■須永、村上、渡邊

1. 会長挨拶

青木会長より挨拶がなされた。

2. 平成 22 年度第 5 回理事会議事録の承認

(國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長より平成 22 年度第 5 回理事会の議事録が示され、承認がなされた。

【審議事項】

3. 平成 23 年度春季研究発表大会について

(山崎大会副実行委員長(代) 山中担当理事)

山崎大会副実行委員長の代理として山中担当理事から、平成 23 年度春季研究発表大会について、資料に基づき説明がなされた。前回理事会に提出された案からの主な変更点である参加費、懇親会費の金額について審議がなされ、承認された。

4. 第 58 回春季研究発表大会のテーマセッションと

オーガナイズドセッションについて

(古屋研究推進委員長)

古屋研究推進委員長より、第 58 回春季研究発表大会のテーマセッションおよびオーガナイズドセッションの進め方について説明がなされた。審議の後、テーマセッションについては例年通り進めることで承認がなされた。オーガナイズドセッションの選定方法について議論がなされ、公募および理事会から提案されたテーマを理事会で審議し決定することとした。また今までオーガナイズドセッションの記録・報告は十分行われていないため、オーガナイザーに記録および報告を義務付けることとし、それらの報告の場としては、ホームページの利用など検討することとした。また公募の締め切りを 3 月 4 日とし、第 8 回理事会で審議することとした。

5. IASDR2013 について(杉山, 山中担当理事)

杉山担当理事より、IASDR2013 の開催時期について、IASDR のボードメンバーから 9 月上旬は、大学のスケジュール的に好ましくないとの意見がよせられたため、9 月上旬から 8 月 26 日～ 30 日に変更したいとの提案がなされ、審議の後、承認がなされた。また感性工学会との共催について、IASDR ボードメンバーで審議した結果、承認されたとの報告がなされた。学術会議への申請については、申請書を提出し終え、現在ヒアリングの通知を待っている状態であるとの報告がなされた。

6. 学会誌の電子化について(山中広報委員長)

山中広報委員長より、学会誌の電子化について現状および問題について説明がなされた。電子化にともない、印刷用

から電子登録用の編集作業に切り替える必要があり、これまでの経緯から、現在印刷を依頼している会社に、編集作業についても依頼したいとの説明がなされ、承認がなされた。また論文審査の電子化については、J-Stage の平成 24 年春のシステム移行に合わせて準備を進めていきたいとの報告がなされた。

7. 会員の移動について(國澤本部事務局長)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[入会：正会員 7 名(内外国人 3 名)], [退会：正会員 6 名, 賛助会員 1 件] が承認された。

【報告事項】

8. 第 57 回春季研究発表大会報告(禹大会実行委員長)

禹大会実行委員長より第 57 回春季研究発表大会について、また決算について報告がなされた。

9. 平成 22 年度秋季企画大会報告(蓮見大会実行委員長)

蓮見大会実行委員長より、平成 22 年度秋季企画大会について、また決算について報告がなされた。

10. 基盤的教育推進プログラムについて

(蓮見教育・資格委員長)

蓮見教育・資格委員長より、文科省から産業技術大学院大学が受託した平成 22 年度産学連携による実践型人材育成事業「専門人材の基盤的教育推進プログラム」の中で、学会が再受託した「レベル 3 (デザイナー経験が 1 年～ 5 年までのデザイナー向け) 実証授業の実施」について、具体的な科目、開講日時などの説明がなされた。

11. 横幹連合との連携状況(松岡担当理事)

松岡担当理事から横断型基幹科学技術研究団体連合から依頼があった「学会連携による課題解決」への取り組みについて、デザイン学会として、「デザイン統合に向けたデザイン科学の基盤構築と、それに基づく「タイムアクシス・デザイン」の推進」を課題として提案したとの報告がなされた。

12. 作品集進捗状況

(須永作品審査・作品集編集委員長(代) 松岡作品審査・作品集編集委員)

須永作品審査・作品集編集委員長の代理として松岡作品審査・作品集編集委員より、二次審査の結果、23 件を通過としたこと、最終締め切りを 12 月 20 日に延期したこと、ま

た1月に作品ムービーのデジタル編集作業にとりかかるとの報告がなされた。杉山理事から、スタート時に議論された作品集の理念が、変質してきているのではないかとの指摘がなされ、再度委員会で学会としての作品集の在り方について確認することとした。

13. 藝術学関連学会連合シンポジウムについて

(黒川担当理事(代) 國澤本部事務局長)

黒川担当理事の代理として國澤本部事務局長より、来年の6月に開催されるシンポジウム「アートとデザインー芸術における乖離と融合ー」について説明がなされた。藝術学関連学会連合がシンポジウムのテーマとしてデザインを扱うのは初めてであること、また意匠学会と初めて連携しシンポジウムを開催すること、場所については京都もしくは大阪で検討を進めていることについて報告がなされた。

記録：小野

平成 22 年度活動報告

企画委員会(総合企画) 尾登誠一

デザイン諸領域が横断的に連携展開される局面を俯瞰しつつ、学会内外の要請に呼応した大会テーマの企画、調整等を行った。また学会員の裾野拡大をめざした「学生会員制度」は、理事会および財務委員会と連携し検討を重ねたが、当面は学生キャン

ペーンの実施、会則改定に関する準備を行った。

1. 平成 22 年度春季研究発表大会

会期：平成 22 年 7 月 2, 3, 4 日

会場：長野大学 上田キャンパス

大会テーマ：「和の文化」と「デザイン」

基調講演として島喜治氏による「今に生かす庶民文化」が行われた。またオーガナイズドセッションとして A. 学生企画セッション, B. 地域資源を活用した地域振興デザインを考える, C. これからの商品開発におけるデザインの役割, D. デザイン学のデザイン, E. 感性価値と地域デザインの5本が開講された。また口頭発表, ポスターセッションも盛況であった。特に一般公開を掲げたオープンな春季大会であったことを付記したい。

1. 平成 22 年度秋季企画大会

会期：平成 22 年 11 月 13 日

会場：筑波大学 大学会館・総合交流会館

大会テーマ：「地域再生デザイン学の実践と構築」

概要は、①ポスター展示、「医療アナロジーによる地域再生デザイン」の自由討論、②日刊工業新聞社/機械工業デザイン賞作品展示とプレゼンテーション、③学生プロポジション展示、④大会テーマ「地域再生デザインの実践」に基づく7本の研究発表とパネルディスカッションが行われた。

3. 学生キャンペーンの広報：大学院生限定の年会費・入会金減免キャンペーンを、平成 22 年度 4 月から 2 年間の期間限定でおこなうこととし、チラシ等による広報活動を展開した。また学生会員制度導入準備に向けた起草案の検討を行った。

自動引き落とし手続きのお願い

当学会では、会費の自動引き落としが義務付けられております。

すでに、半数以上の会員の方にご利用いただいておりますが、まだ登録がお済でない会員の方は、登録手続きをされますよう、お願い申し上げます。

また、口座引き落とし依頼書がお手元のない方は、本部事務局へご請求ください。

本部事務局

平成 23 年度の年会費は、5 月 6 日に引き落としになります。



上から時計回りに：懇親会会場風景，木で暮らすフォーラム，もうひとつの住まい方フォーラム，フォーラム鼎談。



第2支部活動報告

佐々木美貴

平成22年度第2支部活動は、首都圏におけるデザインの問題として、多様で密な人口構成の住まい方をキーワードに会員相互のつながりを創り出す事を目指して、環境造形デザイン部会と筑波大、もうひとつの住まい方推進協議会の協力のもと、活動を行いました。

1回目に、昨年の日本デザイン学会秋季大会において、懇親会を企画担当しました。大会午後の部パネルディスカッション「地域再生デザインの実践」のパネリストの皆さんを中心としたテーブル座談会形式の企画で、参加者58名と軽食をとりながら活発な議論の時間を提供しました。大会の議論の延長として地域の再生をテーマにした具体的な意見交換は、参加者相互の今後の活動に良い刺激となり、パネリストからも、お互いの連携を望む声も聞かれました。個々の活動では限界もありますが、他分野でつながる事で「できる事」が広がり、更に倍、3倍、無限大になります。今後の日本デザイン学会を通じた地域再生の連携を第2支部からも発信していきたいと強く思いました。

2回目として11月28日に「複合でつなぐ地域の暮らしと福祉」フォーラム（「もうひとつの住まい方推進協議会」主催、東洋大学、日本デザイン学会後援、東洋大学 白山キャンパス）を第2支部会員を中心にご案内し、多数のご参加を頂きました。フォーラムでは、第2部「複合によって広がる新たな住まいと暮らし」を千葉大学小林秀樹教授に基調講演と鼎談。第2

部では、「複合」で考える暮らしと福祉の拠点づくりをテーマに地域での拠点の複合化で、多様な人々が集うメリットがある事。また第3部では、拠点をつなぎ地域を結ぶ「複合」の可能性をテーマに地域の拠点と異業種の拠点を結ぶ「複合化」で、地域全体が活性化することを、日本各地の取り組みから学びました。今日本が抱えている住まい方の問題解決に向けての糸口が見えたのではないのでしょうか？また、関連シンポジウムとして、日本デザイン学会メーリングリストにフォーラム「木で暮らすー木で稼ぎ、木で生きるー」（独）科学技術振興機構社会技術研究センター研究開発領域「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究開発プロジェクトをご案内させて頂きました。（2010年12月12日13時半～17時半 早稲田大学にて）第1部「木で暮らす」ために、森でできること田中優（未来バンク事業組合理事長）第2部山の自力更正：栗駒山の試み。第3部 総合討論「木で暮らすー新たな可能性を切り開く」こちらにも会員の皆さまのご参加を頂きました。

今年3月14日に3回目の支部活動として見学会を計画しました。前述のフォーラムで以前ご紹介が合った、日比谷公園の年越し派遣村主催のフリーター全般労組が作った四谷にある「自由と生存の家」の見学会を行う事になりましたが、東日本大震災の交通網の混乱の為、8月末までに延期となりました。日本デザイン学会会員の方にもご参加予定を頂きました。そこで、それぞれの立場でのご意見を頂きたく会議の時間を設けました。見学会と会議の実施日が決まりましたら再度募集させて頂きます。皆さまのご参加をお待ちしています。

最後になりましたが、第2支部の幹事として、(株)坂坂制作所 武智稔氏、東京工芸大学 渡辺仙一郎氏にご参加頂いております。

第3支部活動報告

第3支部長 佐々木尚孝

第3支部では、平成23年3月20日(日)に新潟工科大学にて「日本デザイン学会第3支部平成22年度研究発表会・懇親会」を開催しました。

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の余震が残り、かつ福島原子力発電所事故の影響もあり、幹事会としては開催の有無の決断が迫られました。そこで、発表会場の近隣と会場アクセスの安全性を調査検討し、参加予定者全員に対して出欠の意志確認を取りました。その結果、学生の辞退希望が多かったものの会員はほぼ全員から出席との意思表示があり、予定通り研究発表会を開催することを決定しました。

研究発表会は、平成17年度から毎年1回開催され今年度で6回目となります。今年度の参加者は18名となり例年より少ない結果でしたが、発表件数は口頭発表20件(内3件が欠席)、ポスター発表3件があり、十分に内容のある研究発表会となりました。発表内容は、「日本デザイン学会第3支部研究発表概要集」(表紙デザイン黄副支部長)にまとめられています。また、懇親会は明るい学生食堂で開催され、第3支部会員及びび学生参加者の意見交換が活発に行われました。なお、今回の参加費の一部を、東北地方太平洋沖地震の義援金とすることが、参加者全員一致で決まりました。

会場提供にご尽力下さいました新潟工科大学の油浅先生、そして開催実施に努力下さいました担当幹事の池田先生と滝本先生には、この場をお借りして感謝申し上げます。



第4支部・平成22年度活動報告

第4支部長 三橋俊雄

1) 地域生活文化研究会の一環として、学外演習を、平成22年9月7日(火)～9日(木)に、京都府宮津市由良地区において実施した。テーマは「由良の自然を学び、由良の自然と遊ぶ」とし、参加者は、京都府立大学(三橋+27名)、滋賀県立大学(面矢+4名)の計33名であった。演習では、植物調査と名札付け作業、手長エビ漁体験、由良小学生を対象とした植物標本づくり、田舟遊びなどを実施した。「自然共生教育」を基本姿勢として、大学間、地域連携による生活文化体験学習を行うことができた。

2) フォーラム「尖った『ものづくり』を生み出す総合プロデューサー創出」を、平成22年度文部科学省大学教育・特別教育研究連携融合事業「京都(日本)の尖った『ものづくり』総合プロデューサー育成教育プログラム」の一環として、平成23年1月21日(金)、京都工芸繊維大学60周年記念館にて開催した。

- (1) 青井清一氏
(東京大学 デザインイノベーション、元TOTOユニバーサルデザイン推進本部長)
「総合プロデュースがもたらす新たな価値創造」
- (2) 坂井直樹氏
(コンセプター、(株)ウォーターデザインスコープ代表)
「ものづくりにおける総合プロデュースの役割」
- (3) 黒川雅之氏
(建築家、プロダクトデザイナー、(株)黒川雅之建築設計事務所 代表取締役、(株)デザイントープ 主宰)
「建築とプロダクトデザインにおける総合プロデュースの役割」
- (4) 久保雅義氏
(京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授、サステナブルデザイン教育研究センターセンター長)
パネルディスカッション
「尖った商品を生み出す総合プロデュースの要件」

3) 日本デザイン学会第4支部研究発表会を、平成22年1月22日(土)、京都府立大学にて開催し、以下の口頭発表と研究交流が行われた。

- (1) 益岡了(岡山県立大学)
岡山県立大学情報デザインコースにおける発想教育
- (2) 坪郷英彦(山口大学)
無形民俗文化財民俗技術とデザイン学

- (3) 和田智紀 (和歌山大学)
情報操作機器におけるタスクフローデザインパターンの構築および提案
- (4) 森田祐輔 (和歌山大学)
インタビューアーとインタビュー対象者の共同作業によるユーザ要求事項抽出のためのインタビュー手法の提案
- (5) 石原啓介 (和歌山大学)
情報処理プロセスを考慮した分かりやすい調理レシピ作成の為に7項目の提案
- (6) 上原信哉 (和歌山大学)
ユーザビリティ評価手法 SUM の有効性の検証とソフトウェア化
- (7) 木原理絵 (和歌山大学)
サービス分類に即した公共の GUI デザイン指標の一提案
- (8) 茶木盛暢・山岡 俊樹 (和歌山大学)
文字の見えやすさに関する許容範囲測定法の活用
- (9) 荘 心宜 (京都府立大学)
台湾・客家食文化研究
(1) 日本時代における後山地域 (花蓮) の食文化調査
- (10) 陳譽云 (京都府立大学)
台湾・日本統治時代における竹の産業的、文化的価値
- (11) 郷内義浩 (京都府立大学)
四肢に不自由があるユーザのための室内用移動機器のデザイン
- (12) 山本俊光 (京都府立大学)
視覚障がい者のための食事に関するユニバーサルデザイン
- (13) 袁藝文 (京都府立大学)
電動車による中国の高齢者の健康づくりに関する研究
- (14) 山田隆人 (京都府立大学)
脳血管障害を有する方の住宅改修後における日常生活活動の遂行頻度の改善内容
- (15) 玉井恵里子 (京都工芸繊維大学)
日本のカーテンのための房飾り
- (16) Aleksandar Kovac・岡澤佳恵 (京都工芸繊維大学)
フォト弁当
- (17) 斎藤夏海 (京都工芸繊維大学)
ECO に関する消費者意識の実態と変化の研究
- (18) 遠藤智巳 (京都工芸繊維大学)
鉄道駅券売機の利用者視点からの使いやすさの考察
- 高齢者・若者比較から見る画面表示の評価 -
- (19) 許実 (京都工芸繊維大学)
没入型ゲームが課題解決の動機付けに及ぼす影響

第4支部・平成23年度活動計画

第4支部長 三橋俊雄

第4支部では、1) ユニバーサルデザイン研究会、2) インタラクティブデザイン研究会、3) 地域生活文化研究会、4) 近畿・中国・四国地区研究会など、関西地区における学術研究活動を行う。ユニバーサルデザイン研究会では、みやこユニバーサルデザインフォーラムや京都市等と連携して、実践的なUD活動を推進するための研究会を開催する。インタラクティブデザイン研究会では、当該分野の研究者やデザイナーを招いて講演会を開催し、新たなライフスタイルとインタラクティブデザインの関係について参加者と議論する。地域生活文化研究会では、フィールドワークを通して生活文化のあり方を見つめる活動を積み重ねていく。近畿・中国・四国地区研究会では、横断的なテーマ設定で研究会を企画開催し、地域間・大学間連携による議論の場を創出していく。また、メーリングリストを活用し、地域ネットワークのさらなる拡大をめざしていく。以上のほかに、関連学会支部との研究会等の共催も、支部メンバーの協力を得て検討していく。

作品集審査編集委員会の平成22年度活動報告

今年度は青木弘行現学会長の今年度活動方針「デジタルコンテンツ掲載」のもと本作品集の編纂をおこなった。試みたのは、文字原稿に加えてデジタルコンテンツやインタラクティブ映像として学会誌に添付掲載することである。文字原稿を「作品論文」、映像を「作品ムービー」と呼び弁別した。採録した23件の内、13件が映像をともなう作品として掲載できた。また、映像のDVDオーサリング作業をふまえて応募要項の簡略化などを試みた。今後の課題は、学会員の意見を集約して論述と映像を一体化した作品集のあり方と編纂のプロセスをさらに改善することである。(須永剛司)

第58回春季研究発表大会の 発表申込に関するお知らせ

発表申込・概要集編集担当 佐藤弘喜

平成23年6月24日(金)～26日(日)に千葉工業大学で第58回春季大会が催されます。このうち、25日(土)・26日(日)が研究発表大会となります。研究発表の役割は、質疑応答によって得られる新たな視点や知識の獲得にあります。今回も例年どおり、通常の研究発表(口頭発表とポスター発表)の他、研究部会や会員有志が統括する口頭発表(テーマセッション)、優秀な研究発表に対する表彰を設定する予定です。奮ってお申し込み下さい。なお、発表要領や概要フォーマット等の詳細は学会ホームページに掲載の予定です。各自ご確認のほどよろしくお願ひします。

発表申込に関する概要

申込受付期間(予定):平成23年3月16日(水)～4月20日(水)

申込方法:学会ホームページ経由J-Stage 利用

発表形式と時間(予定):口頭発表20分(含む質疑応答)、ポスター発表(1時間)

概要形式:A4・2ページ(英文概要の場合は日本語要約を掲載)

※原則として期限を過ぎた申込は受け付けできませんので、ご承知おき下さい。

なお、Web投稿に支障のある方は本部事務局(FAX:03-3301-9319)にご照会ください。

テーマセッションについて

テーマセッションは、研究部会や会員有志がテーマや発表順等を統括する口頭発表枠です。どの部会が参加しているのか、どのようなテーマが提示されているのかについては、学会ホームページ上で公開予定です。参加をご希望の方は、専用サイトでの発表申込の際に「発表分野」のプルダウンメニュー中に部会名とテーマが列記される予定です。該当するものを選択してください。

発表申込後のスケジュール

発表採否の連絡:5月上旬予定

発表日時と会場のお知らせ:6月上旬予定

ホームページ上での概要公開:6月中旬予定

お問い合わせ先:jssd@design-cit.jp(佐藤)

献本御礼

◆寄贈図書

・学校法人東北工業大学 50 年史

◆機関誌・会報

・ひろしま観光コンベンション Vol.81 JAN, Vol.82 APR, 財団法人広島観光コンベンションビューロー, 2011

・響都 京都文化交流コンベンションニュース Vol.15, 財団法人京都文化交流コンベンションビューロー, 2011

・たまび NEWS, 54 AUTUMN, 多摩美術大学, 2010

・たまび NEWS, 55 WINTER, 多摩美術大学, 2010

・KUMAGAI UPDATE, 67, 株式会社熊谷組, 2010

・J-STAGE ニュース, No.26, 独立行政法人科学技術振興機構, 2010

◆予稿集・論文集・報告書

・四国大学紀要, 自然科学編 No.32, 人文・社会科学編 No.35, 2011

催し物

高椅禎彦展

◆会期:

2011年3月1日(火)～5月8日(日) 10:00～17:00

◆会場:東京国立近代美術館工芸館

◆主催:東京国立近代美術館

高野山の書庫の扉をひらく

空海からのおくりもの

◆会期:

2011年4月23日(土)～7月18日(月) 10:00～18:00

◆会場:印刷博物館

◆主催:凸版印刷株式会社印刷博物館

視覚の実験室 モホイ=ナジ/イン・モーション

◆会期:

2011年4月16日(土)～7月10日(日) 9:30～17:00

◆会場:神奈川県立近代美術館葉山

◆主催:神奈川県立近代美術館

特別展 写楽

◆会期:

2011年4月5日(火)～5月15日(日) 9:30～17:00

◆会場:東京国立博物館 平成館

◆主催:東京国立博物館, 東京新聞, NHK, NHK プロモーション

神と仏、自然への祈り
白洲正子

- ◆会期：
2011年3月19日（土）～5月8日（日）10:00～18:00
- ◆会場：世田谷美術館
- ◆主催：世田谷美術館（財団法人せたがや文化財団）、NHK、NHK プロモーション

生誕100年 岡本太郎展

- ◆会期：
2011年3月8日（火）～5月8日（日）10:00～17:00
- ◆会場：東京国立近代美術館
- ◆主催：東京国立近代美術館、川崎市岡本太郎美術館、NHK、NHK プロモーション

六本木デザイナーズフラッグコンテスト2011

- ◆会期：
2011年3月24日（木）～5月8日（日）
- ◆会場：六本木通り、外苑東通り、芋洗坂
- ◆主催：六本木商店街振興組合

会員の移動

◆平成22年度第6回理事会承認 2010.12.18

新入会 正会員7名（内外国人3名）

大田 暁雄 小川 亮 武田 光正
夏坂 光男 Chiu, Wan-Trng Kuo-Hiang Chang
曾 永宏

退会 正会員6名

池田 大祐 大澤 晃平 澤 明日香
時長 逸子 村山 久美子 脇田 玲

賛助会員1件

（株）川島織物セルコン

◆平成22年度第7回理事会承認 2011.01.22

新入会 正会員10名（内外国人2名）

伊藤 明彦 河野 克彦 田中 裕子
谷本 尚子 中山 定雄 法理 樹里
堀越 敏晴 矢久保 空 Lan-Ting Wang
李 亜傑

退会

正会員8名 伊藤 恵士 伊藤 紀之
後藤 照雄 定延 久美子 高間 快明
田辺 幹夫 三留 修平 宮下 英明

住所変更はお済みですか？

住所不明で戻ってくる郵便物が増えております。

住所変更は確実にお願いします。

届出は文書にてお願いします。転居される方は、FAX または

綴じ込みの「入会届け」に朱書きで「変更届」と書き添えて、事務局までご連絡下さい。

ホームページ http://jssd.jp/files/change_regular.pdf にも様式が掲載されておりますのでご利用ください。

退会等の届出も必ず文書にてお願いします。

本部事務局

大会テーマ：産学コラボレーションによるデザイン

日本デザイン学会 第58回春季研究発表大会

日程：6月24日（金）-26日（日）

会場：千葉工業大学・津田沼キャンパス（JR津田沼駅より徒歩5分）

▶産業界とのコラボレーション：24日は産業界を特に考慮した「講習会」、「特別講演」、「特別セッション」を、また25、26日には産業界からの参加促進とコラボレーションを考慮した「産学セッション」を実施します。

▶地域や一般の方とのコラボレーション：24日の「特別講演」および25日、26日の「ポスター発表」などはパブリック・プログラムとして無料で公開します。

▶学生達の積極的な交流：25日、26日に「学生交流セッション」を実施します。

日本デザイン学会会長：青木弘行
日本デザイン学会第58回春季研究発表大会
大会会長：小原二郎
大会実行委員長：上原勝

お問い合わせ：
日本デザイン学会 第58回春季研究発表大会
大会実行委員会事務局
（千葉工業大学 工学部 デザイン科学科 担当：城戸）
TEL & FAX：047-478-0569
メールアドレス jssd@design-cit.jp

■大会日程

●6月24日(金)

| | |
|-------------|-----------------------------|
| 10:00 | 受付開始 |
| 10:30-11:30 | 日本デザイン学会総会 |
| 11:30-12:10 | 昼食 |
| 12:10-14:10 | 講習会 A と講習会 B |
| 14:20-15:40 | 特別講演：喜多俊之氏（プロダクトデザイナー／大阪芸大） |
| 15:50-17:50 | 特別セッション A と特別セッション B |
| 18:00-19:30 | デザイナーズミーティング |
| 10:20-17:50 | 企業展示 |

●6月25日(土)

| | |
|-------------|--|
| 08:30 | 受付開始 |
| 09:00-11:00 | 口頭研究発表 |
| 11:00-12:00 | ポスターによる研究発表 |
| 12:00-12:50 | 昼食、ポスターによる研究発表 |
| 13:00-15:00 | 口頭研究発表 |
| 15:10-17:10 | オーガナイズドセッション A と B、産学セッション A、 学生交流セッション A |
| 17:30-19:30 | 懇親会 |
| 09:00-17:10 | 企業展示 |

●6月26日(日)

| | |
|-------------|--|
| 08:30 | 受付開始 |
| 09:00-10:40 | 口頭研究発表 |
| 10:50-12:10 | 口頭研究発表 |
| 12:10-13:00 | 昼食、ポスターによる研究発表 |
| 13:00-14:00 | ポスターによる研究発表 |
| 14:10-16:10 | オーガナイズドセッション C と D、産学セッション B、 学生交流セッション B |
| 16:20-16:30 | 閉会式 |
| 09:00-16:10 | 企業展示 |

■参加費

下記は事前申込の場合の費用、()内は当日参加の場合の費用

| | 大会参加費 | 懇親会費 |
|--------|--------------|--------------|
| 会員 | 7000円(8000円) | 6000円(7000円) |
| 非会員 | 8000円(9000円) | 7000円(8000円) |
| 会員の学生 | 3500円(4500円) | 3000円(4000円) |
| 非会員の学生 | 4000円(5000円) | 3000円(4000円) |

- * 大会参加費には概要集代 3,500円を含んでいます。
- * 大会発表費(口頭発表・ポスター発表)は事前申込の場合 4000円(当日に支払う場合 5000円)
- * 「特別講演」または「ポスターによる研究発表」だけの参加者はパブリックプログラムとして参加費無料
- * 賛助会員は2名まで参加費無料、名誉会員は参加費無料

■特別講演「未来のためのデザイン」

日時：6月24日（金）14:20-15:40（一般公開）

講師：喜多俊之（プロダクトデザイナー／大阪芸術大学デザイン学科学科長）

概要：閉塞感のある日本の状況を変える一つヒントはデザインにあります。これまでの体験や作品を紹介しながら、これからの未来のデザインについて語る。絶対に聞き逃しては行けない、未来のための貴重な提言。

講師略歴：1969年より、日本にとどまらず、環境および工業デザイナーとして、イタリアを始め、国際的に制作活動を広げていく。ヨーロッパや日本のメーカーから、家具、液晶テレビなどの家電、ロボット、家庭日用品に至るまで、分野を超え、多くのヒット商品を生む。作品は、ニューヨーク近代美術館、パリ国立近代美術館、ミュンヘン近代美術館等、世界のミュージアムに多くコレクションされている。近年は、日本だけでなく、ヨーロッパ、アジア各国などで、セミナーやワークショップを開く等、教育活動にも力を入れている。ライフワークとして、日本の伝統工芸に取り組む他、地場産業を活性化する仕事に関わり続けている。

■講習会 A「情報を分かりやすくする視点と技術、インフォグラフィックスの基礎」

日時：6月24日（金）12:10-14:10

講師：木村博之（Tube Graphics）、上平崇仁（専修大学）

概要：私たちの身の回りには、もっと使いやすく、分かりやすく、安全になるということがたくさんあります。使う人の使い勝手や安心・安全を考えると情報を提供する側の我々に求められていることが見えてきます。その事例を紹介や、分かりやすく引き付けるための表現技術を確認した上で、ユーザー寄りの優しい視点を見つけるためのワークショップです。

■講習会 B「21世紀の持続可能な社会をめざして、エコデザインの基礎」

日時：6月24日（金）12:10-14:10

講師：浅井治彦（明星大学造形芸術学部、JIDA 環境委員会委員長）

概要：食、エネルギー、環境、経済、様々な問題に先行きが見えません。そんな社会の様々な課題にデザインは立ち向かおうとしています。新しい捉え方で成功しているデザイン事例の手法を解き明かします。さらに、誰もが幸せになるための、暮らしを変え、生き方を変える革新的なデザイン事例と、その挑戦プロセスを紹介します。

■特別セッション A「乗り物の未来とデザイン」

日時：6月24日（金）15:50-17:50

セッションリーダー：木村徹（名古屋工業大学大学院） パネラー：松井龍哉（フラワー・ロボティクス㈱代表）、布垣直昭（トヨタ自動車㈱デザイン本部本部長）、上田太郎（日産自動車㈱グローバルデザイン本部デザインディレクター）、海老澤伸樹（㈱本田技術研究所常務執行役員）

概要：未来は従来の延長線上にはない。人間の生き方、国のあり方まで変革を迫られている今、変らざるをえない自動車社会。そんな社会をいかにリードするかデザイン力が問われている。安全、安心、サステイナブルな環境を継続するための施策について、近未来を目安に自動車、自動車社会のあるべき姿について語っていただく。

■特別セッション B「家電・情報の未来とデザイン」

日時：6月24日（金）15:50-17:50

セッションリーダー：河原林桂一郎（静岡文化芸術大学） パネラー（敬称略/50音順）：井上雅弘（㈱東芝デザインセンター長）、有吉司（㈱日立製作所研究開発本部デザイン本部長）、加藤公敬（富士通デザイン㈱代表取締役社長）、森憲朗（LG Electronics Japan Lab. ㈱日本デザイン研究所主任研究員）

概要：産業構造の変化とともに家電・映像・情報・通信機器のデザインには、ハード主体のモノづくりからインタフェースやソリューションに代表されるように使い方や楽しみ方といった生活者の創造的満足への提案が求められています。こうした状況の中でユーザーや生活者との協働でデザインを開発するソーシャルデザインの動きも出てきました。電機業界の企業内デザイン部門が目指す未来とデザインの価値について、各社の考えやビジョンを語り合います。

■デザイナーズミーティング

日時：6月24日（金）18:00-19:30

概要：プロのデザイナー、これからデザイナーを目指す学生やデザイン関係者が集まり、交流や情報交換をする。ささやかな飲み物も準備する予定です。

■産学セッション A「Web と UX デザイン」

日時：6月25日（土）15:10-17:10

セッションリーダー：浅野智（横浜デジタルアーツ専門学校） パネラー：坂本貴史（ネットイヤーグループ）・安藤昌也（千葉工業大学）・脇阪 義則（楽天）

概要：昨年、人間と人工物の関係を使いやすくするための国際規格 ISO13407 が改訂され、ISO9241-210 として更に良いユーザー経験の創出という色彩が濃くなりつつある。このプログラムでは、モノのデザインに比べてイニシャルコストが低い分ユーザー経験に大きく注力できる Web 業界のデザイン手法についてトップランナーの方々にお話を聞き、議論を深める。

■産学セッション B「これからのデザイン・スキルと産学連携の可能性」

日時：6月26日（日）14:10-16:10

セッションリーダー：山内勉（福井工業大学） パネラー：青木史郎（財団法人日本産業デザイン振興会）、他4名

概要：社会や産業そして企業をとりまく様々で複雑な課題に対して、デザインが果たす（期待される）役割は何か。それに関わるデザイナーに求められるスキルは何か。一方、次代の人材を育成するデザイン教育・研究が目指すところは何か。産と学に関わるそれぞれの視点から意見交換を行い、産学連携の可能性を考える。

■学生交流セッション A「未来のためのワークショップ」

日時：6月25日（土）15:10-17:10（事前申込が必要です）

アドバイザー：岡本誠（はこだて未来大学）、原田泰（千葉工業大学）、小早川真衣子（多摩美術大学 CREST）、佐藤優香（国立歴史民俗博物館）

概要：目の前のコンテンツとの関わり方、さらにはそこから得られた価値を社会化していくためのデザインを探るワークショップ。テーマは「歴史博物館」を想定し、フィールドワーク、表現、発表、ディスカッションまでを学会期間中に実践する予定。情報デザイン、建築デザイン、情報工学、認知科学、教育工学など、様々な分野の学生が、専門家とともに膝を突き合わせて目の前の対象をデザインしていく場をつくり、分野と世代を超えた交流をめざす。

■学生交流セッション B「“楽しさのミナモト” 交流ワークショップ」

日時：6月26日（日）14:10-16:10（事前申込が必要です）

アドバイザー：安藤昌也（千葉工業大学）、山崎和彦（千葉工業大学）ほか2名を予定

概要：このワークショップでは、オモチャ遊び体験をテーマに、他者のオモチャ遊びの観察などを通して“楽しさのミナモト（源）”探しをします。また、発見した楽しさのミナモトを基に、新しいオモチャのアイデアを発想します。このワークショップは、多様な大学の学生で構成されたグループで行い、協同作業を通して互いに交流を深めます。

■懇親会

日時：6月25日（土）17:30-19:30

概要：参加者が集まり、交流や情報交換をする。お食事とお飲物をご用意いたします。

